

トロイの木馬

しみず まさひろ
清水 雅弘

●日本郵政グループ労働組合（J P 労組）中央本部 労働政策局長

「トロイの木馬」と聞けば、多くの方はPCに悪意のある動作をもたらすプログラムを思い浮かべると思います。そのプログラムは、無害を装いPC内に侵入し、内部から情報を盗んだりシステムを破壊したりするものですが、語源をご存知でしょうか。

それは古代ギリシャの神話（実話説もあり）を由来とするものです。トロイア戦争において、ギリシャ軍がトロイの街を攻略するために用いた策略がポイントです。ギリシャ軍は、撤退するふりをして大きな木製の馬をトロイに残しました。トロイの人々はこれを平和の贈り物として城内に持ち込みましたが、実際にはその内部には選ばれた戦士たちが隠れており、夜中に城の門を開いてギリシャ軍を内部に招き入れ、最終的にはトロイは滅ぼされました。見た目に騙され、内部からの破壊に気づかない危険性を示しているものと言えます。

この神話は、いくつかの気づきを与えてくれますが、「思い違い」はその一つです。いくつか身近な例を挙げます。

約20年前、支部の役員だった私は、組合員から残業の話題を耳にし、“いちじ（深夜1時）”と“しちじ（19時）”を聞き違い、当時の管理者に「三六違反だ」と迫ったことがあり、後に謝罪を行うこととなりました。これは私の単純な聞き違いでしたが、日常生活や仕事上の誤解等は誰しも経験があると思います。

また、高齢者等を狙った「オレオレ詐欺」や、SNSによる被害が急増している「投資詐欺」等は、形は違えども思い違いによるものと言え

ます。

これらのように、誤解は意図しない結果を招くことがあります。時には予想外のイノベーションにも繋がります。例えば、インスタントラーメンの発明です。「朝ドラ」でも話題になった安藤百福は、パスタの製法をヒントに、麺を油で揚げることによって保存可能にしました。ただ、この製法は本来のパスタ製法と異なるものでしたが、その誤解が新しい食品「チキンラーメン」を生み出し、今やインスタントラーメンは世界中の食生活に貢献しています。

このような思い違いは人間の根本的な特性であり、ちょっとしたミスから人生や社会を変えるほどの大きな誤解まで、さまざまな形で存在します。だからこそ、この世界は面白いと言えるのかも知れません。

私にとって「トロイの木馬」は、“人は思い違いの多い生き物である”と教えてくれました。それは避け難いことかも知れませんが、外見や表面的な情報に惑わされず偏見を持たないこと、なるべく分かりやすく人に伝えること、常に疑問を持ち真実を探求する姿勢が重要と、自身に言い聞かせています。また、“三六違反”の聞き違いを教訓に、情報の信頼性と事実確認は特に留意するよう心掛けています。

古代の教訓が、今日の私たちにも役立つことを改めて感じさせてくれます。それをどのように生活や仕事に活かしていくべきか、また、誤解を恐れずそれを学びと成長の機会として捉えることができるか、現代社会においても私たちに求められる姿勢だと思っています。